

看護基礎教育課程におけるコモンスキルトレーニング導入の取り組み

永易 裕子 大高 恵美 佐々木理恵子 牟田 能子 細越 幸子

A study on usefulness of common skills training in the basic nursing curriculum

Yuko NAGAYASU, Emi OTAKA, Rieko SASAKI, Yoshiko MUTA, Sachiko HOSOGOE

要旨：看護学部初年次生のコモンスキル向上を図る取り組みとして、コモンスキルに関する無記名自記式質問紙調査と並行して、松澤らが開発したトレーニングプログラムを希望者に実施した。質問紙調査では、トレーニングを“受けたい”または“必要だ”と思う者は全体の3割であることがわかった。また、トレーニングの受講に消極的な学生は日々の生活において自分の属する社会に適した行動をとるという意識が希薄であり、トレーニングを積極的に必要としない学生は大学に入学する以前と入学後一年とで対人関係のとり方が変わっていないと認識していることが示唆された。松澤らのプログラムを実施した12名は、自身の省察と他者への関心・共感を軸に、他者との相互作用や集団の変化を感じており、プログラム実施中に得られた知識を行動化したり、看護者としてのあり方を考えたりと、自ら成長発展しようとする姿勢がみられた。

キーワード：看護基礎教育課程、コモンスキル、対人関係

Abstract: In an attempt to improve the common skills of nursing students in the first year, a survey was conducted on awareness in regards to common skills. In addition, a common skills training program developed by Matuzawa et al. was implemented for interested students, after which its effects were verified. The results of this awareness survey revealed that those who needed common skills training amounted to 30% of the total and that there was a group of students who felt that they were “not aware of socially appropriate attitude in their ordinary life.” On the other hand, it was found that students who have just completed their on-site clinical practicum had significantly changed the ways of daily living and attitudes toward interpersonal relationships and that they strongly felt a lack of knowledge about common-sense manners and interpersonal relationships as well as had difficulties acting on this knowledge. As for the 12 students who completed the program developed by Matuzawa et al, it was found that they perceived the changes in the group caused by individuals' interaction with others based on self-reflection, care and empathy towards others. In addition, they showed an attitude to try and willfully grow by acting on the knowledge acquired during the program and thinking about how nurses should behave. In consideration of the fact that maturity as a person is not irrelevant to growth as a nurse, this study suggested the usefulness of common skills training at an appropriate time.

Key words: basic nursing curriculum, common skills, interpersonal relationships

はじめに

看護は対象となる「人」との対人関係を前提として成り立っている。看護実践における対人関係スキルの多くは専門的知識や理論等に基づく妥当性や必要性を伴うものの、それらも基本的には「より日常的・常識的な対人関係スキル（以下、コモンスキル）」が基盤になっている。ところが近年、大学入学時にコモンスキルを欠く学生が増加傾向にあることが数多く報告されている^{1) 2) 3)}。看護学の知識体系は専門性の追究という観点から、ますます高度で洗練されたものに進化しつつある一方で、これまで常識とされていた言動や判断が身につけていない学生に対し、看護を実践する上で対象とどのように関係性を構築し深化させていくか、その教育方法についての研究は極めて少ない。

そこで今回、日本赤十字秋田看護大学（以下、本学）に入学した看護学生（以下、学生）の傾向を探るとともに、コモンスキル向上を促す教育方法についての示唆を得ることを目的として、希望者を対象に「松澤らのコモンスキルトレーニングプログラム」^{4) 5)}を実践し、その効果の検証に取り組んだ。

これら取り組みに先立ち、本学研究センター倫理審査委員会の承認を得た後、学生へ本取り組みの趣旨と内容の概要、協力は自由であり中断も可能であること、成績評価とは一切関係しないこと、得られた情報は本目的以外で使用しないこと、情報と分析内容の共有は本取り組みの関係者内とし、発表や論文文化の際には匿名性を遵守する旨を書面と口頭で説明した。さらにトレーニング参加者には同意書に署名してもらった。

1. 本学初年次生のコモンスキルの実態

1) 実態把握の方法

本学平成X年度初年次生を対象に、無記名自記式質問紙調査を3回実施した。調査時期は、入学後2ヵ月目の6月、前期終了時の12月、基礎看護学実習I終了直後の3月とした。質問紙は先行研究^{4) 5)}を参考に6項目から成るものを作成した。各項目の内容は、「①常識的な礼儀作法や人間関係について集中的に学んだ機会がある、②常識的な礼儀作法や人間関係についての知識が不足していると思う、③日頃社会的に適切なふるまい・言動を意識して生活していると思う、④頭では理解できている常識的なこ

とをなかなか行動に移せない方だと思う、⑤入学前と比べて対人関係のとり方が変化したと思う、⑥コモンスキルトレーニングについて（⑥-1コモンスキルトレーニングを受けたいと思う、⑥-2コモンスキルトレーニングは必要だと思う）」であり、対象となる学生には「かなりそう思う」「ある程度そう思う」「ほとんど思わない」の3段階で評価してもらった。得られたデータは、各項目の内容に強く反応する群を抽出するため、「かなりそう思う」群と「ある程度そう思う・ほとんど思わない」群の2群に分類した。そして学生のコモンスキルトレーニングについての思いと関連する項目を探るため、項目⑥とその他の項目間で χ^2 検定を行った。なお統計解析にはSPSS Ver.15.0 for Windowsを用いた。

2) 本学平成X年度初年次生のコモンスキルの実態（表1）

各調査における質問紙の回収数および回収率は、6月は111件（100%）、12月は104件（93.7%）、3月は103件（92.8%）であった。また有効回答率は全調査100%であり、対象者の年齢は99%以上が10代であった。

項目⑥-1「コモンスキルトレーニングを受けたいと思う」と項目⑥-2「コモンスキルトレーニングは必要だと思う」に「かなりそう思う」と回答した群は約3割で推移した。また χ^2 検定を行い有意な関連を認められたのは2項目間で、一つは6月の⑥「コモンスキルトレーニングは必要だと思う」と③「日頃社会的に適切なふるまい・言動を意識して生活していると思う」（ $p=0.028$ ）、もう一つは3月の⑥「コモンスキルのトレーニングは必要だと思う」と⑤「入学前と比べて対人関係のとり方が変化したと思う」（ $p=0.002$ ）であった（表2、表3）。

2. 「松澤らのコモンスキルトレーニングプログラム」の効果

1) 効果検証の方法

本学の平成X年度およびY年度の初年次生で、コモンスキルトレーニングへの参加を希望した学生を対象に、松澤らのコモンスキルトレーニングプログラムを実施した。このプログラムは、日常的場面を状況設定した「ロールプレイ」および視覚情報や作業手順等の言語化能力を促す「表現力小訓練」の実施と、その都度のディス

表1 本学平成X年度初年次生のコモンスキルの実態

項目	質問内容	調査結果			
		回答	6月	12月	3月
			n=111	n=104	n=103
①	常識的な礼儀作法・人間関係について集中的に学んだ機会がありましたか	かなりあった	12 (10.8%)	14 (13.5%)	—
		少しあった	37 (33.3%)	49 (47.1%)	—
		ほとんどない	62 (55.9%)	41 (39.4%)	—
②	常識的な礼儀作法・人間関係についての知識が不足していると思いますか	かなりそう思う	8 (7.2%)	4 (3.8%)	7 (6.8%)
		ある程度そう思う	45 (40.5%)	52 (50.0%)	38 (36.9%)
		あまり思わない	58 (52.3%)	48 (46.2%)	58 (56.3%)
③	日頃社会的に適切なふるまい・言動を意識して生活している方ですか	かなり意識している	24 (21.6%)	19 (18.3%)	31 (30.1%)
		少しはしている	69 (62.2%)	70 (67.3%)	65 (63.1%)
		あまりしていない	18 (16.2%)	15 (14.4%)	7 (6.8%)
④	頭では理解できている常識的なことを、なかなか行動に移せない方ですか	かなりそう思う	14 (12.6%)	15 (14.4%)	13 (12.6%)
		ある程度そう思う	55 (49.5%)	62 (59.6%)	47 (45.6%)
		あまり思わない	42 (37.8%)	27 (26.0%)	43 (41.7%)
⑤	入学前と比べて対人関係のとり方が変わりましたか	変わった	—	14 (13.5%)	25 (24.3%)
		ある程度変わった	—	37 (35.6%)	—
		少し変わった	—	47 (45.2%)	42 (40.8%)
		変わらない	—	6 (5.8%)	36 (35.0%)
⑥-1	コモンスキルについてあなたはどのように思いますか	受けてみたいと思う	35 (31.5%)	35 (33.7%)	—
		あまり受けたいと思わない	65 (58.6%)	51 (49.0%)	—
		受けたくない	11 (9.9%)	18 (17.3%)	—
⑥-2	コモンスキルについてあなたはどのように思いますか	必要だと思う	—	—	32 (31.1%)
		ある程度必要だと思う	—	—	65 (63.1%)
		必要だと思わない	—	—	6 (5.8%)

※12月の⑤のみ4段階評価

表2 6月の項目⑥と③のクロス表

③ あなたは日頃、社会的に適切なふるまい・言動を意識して生活している方ですか

⑥ コモンスキルトレーニングについてあなたはどのように思いますか	③ あなたは日頃、社会的に適切なふるまい・言動を意識して生活している方ですか		合計
	かなり意識している	少しはしている	
受けてみたいと思う	12	23	35
あまり受けたいとは思わない	12	64	76
受けたくない			
合計	24	87	111

p=0.028

表3 3月の項目⑥と⑤のクロス表

⑤ 入学前と比べて、対人関係のとり方が変わりましたか

		少し変わった		合計	
		変わった	変わらない		
⑥ コモンスキルトレーニングについてあなたはどのように思いますか	必要だと思う	14	18	32	
	ある程度必要だと思う	11	60	71	
	必要だと思わない				
p=0.002		合計	25	78	103

カッションから成る1回90分・全6回で構成されている(表4)。教員は必要な物品と場の準備・司会進行を担い、1回に2名が関わった。週に1回の実施で、全メニュー終了に6週間を要するため、実施期間は学生と教員とで調整し、平成X年度は6月23日から7月28日、平成Y年度は6月22日から7月30日の間、毎週1回、放課後に行った。なお、このプログラムにおける学習効果を検証するため、学生には各回終了時

に「自分や他者について気づいたこと」を記述してもらった。

2) トレーニング参加者

トレーニングに参加した学生は、平成X年度・Y年度ともに6名の計12名であり、全員が女性、年齢は18歳もしくは19歳であった。また、「出身高校が同じ」「近所に住んでいる」者同士が誘い合って参加していた。

表4 松澤らのコモンスキルトレーニングプログラム概要

回	ロールプレイ内容	表現小訓練内容
1	○教員の研究室を訪ねる どうしても伝えなければならない用件があり教員の研究室を訪ねたところ、教員は忙しそうにしていた。どのように用件を伝えよう？	なし
2	○接待について考える 叔母が入学祝いを届けるため遠方から訪ねてきた。叔母と会うのは久しぶりである。家人は不在である。どのように叔母を迎えよう？	なし
3	○指示を受け、報告できる 店長からの指示をどのように受け、どのように報告しよう？	○折り紙を折る 伝え手：1回目は「紙飛行機」、2回目は「物入れ箱」。言語のみで折り方を伝える。手は膝の上から離れないように 折り手：説明されたように折る
4	○礼儀正しい電話ができる 恩師から電話がかかってきた。家人はいない。どのように対応しよう？	○恩師に手紙を書く 「設定：クラス会は35名が出席し、とても楽しく大盛況のうちに終了した。私は幹事を代表し、先生にお礼状を差し上げること、同級生や先生と一緒に撮った写真を同封することになった」用意されている便箋・封筒、筆記用具を選び、お設定に合った手紙を書く
5	○しつこい勧誘を断る 新聞の勧誘が来た。家人はいない。新聞をとるつもりはなく断りたい。どのように対応しよう？	○絵を描く 伝え手：用意された絵を見て、どのような絵かを自分の言葉で相手に説明する 描き手：説明されたように描く
6	○感謝の気持ちを伝える お世話になった人に対して、どのように感謝の気持ちを伝えよう？	○人生相談を読む 2人1組になり人生相談を読む。その後、全員で話し合い回答を考える

◎ディスカッションのタイミングと学生数

ロールプレイ実施→ロールプレイを実施したグループメンバー(2~3名)でディスカッション→再ロールプレイ→再ディスカッション→全参加者でディスカッション→休憩→表現力小訓練実施→表現力小訓練を実施したグループメンバー(2名)でディスカッション→再表現力小訓練→再ディスカッション→全参加者でディスカッション

3) プログラムの効果

学生が各回終了時に書いた「自分や他者について気づいたこと」の中から学び得たと考えられる内容を抽出した(表5-1、表5-2)。

学生の学びを時系列で眺めると、自身の省察と他者への関心・共感を軸に、個人と他者との

相互作用や、その中で生じた集団の変化を感受していることがわかる。また、トレーニング中に得られた知識を行動化したり、看護者としてのあり方を考えたりと、主体的に成長発展しようとする姿勢がみられた。

表5-1 コモンスキルトレーニング実施後の学習効果

回	学生による各回終了後の「自分や他者について気づいたこと」(原文)	学習効果
1	・ 意外と客観的に見ることができた。場の空気に人が左右されておろおろしているのを見ていて人はこういうものかと分かちあしかった	他者の行動から人間のあり様に気づき知的興奮を得た
	・ 私は知っている人、慣れた人とは自分を表現することができるのだと思う	自分の行動パターンに気づいた
	・ 人を見てると自分に必要なものは何かと考える時間があって良いと思った	他者の行動を通して自分について考えた
	・ 私はよく、友達で勉強している時や忙しい時に話しかけてしまうことがある。そんな時、今日のように「相手がいつだったら大丈夫か」などアポをとってみることも必要だと思った	トレーニング中の自他の行動を振り返ることを通して自分の新しい行動パターンに気づいた
	・ 他人のロールプレイを見ていて、自分はいつも思ったことなどを相手に伝えずに、自分の中で自己解決してしまうところがあるので、自分の気持ちを表現するのは大切だと思った	
	・ 自分のことだけを考えてしまっ、相手のことを考えていない。ロールプレイの中で相手の都合を確認するべきだった	
	・ いつも一緒に生活している友達の優しい面や何を優先順位にしているかを知ることができた	既知の人の未知の感情や価値観を知った
2	・ 相手のことを思いやるのが大切で一つ一つの言動で相手に伝わるのが大きく異なることに気づいた	コミュニケーションにおける言語の重要性を自覚した
	・ 言葉だけでなくしぐさも好感をもってもらうために必要なのではないかと思った。どうしてもおどおどしてしまっ、相手に不快感を与えてしまっている気がした	コミュニケーションにおける言語以外の重要性を自覚した
	・ 実際にこのような場面になったことがなかったため、どのように接して良いのかとまどった	初の場面で行動することに困難を感じた
	・ 前は学校のできごとであったために言葉使いに注意するだけでよかったが今回はとても難しいと思った	
	・ 自分のミスを手伝って伝えたり、その時に気づいたことを口に出すのは苦手なほうだが、そのことがいかに大切なのかわかって自分で気をつけるようにしたいと思った	思いを言語化し表現することの重要性に気づいた
	・ 自分では思いつかなかった言葉が劇の中で出てきたので、自分とは違った言葉で相手を思いやることができるとわかり、一人ひとり違った思いやりがあることに気づかされた。	表現は個別で多様であることを知った
	・ ちょっとした気遣いの言葉があると嬉しく感じられる。例えば「気をつけて!」や「またいらしてください」等	他者に関心を寄せて、その時の思いを表現する大切さを感じた
3	・ 最初、2組の演技を見て、店長さんはもって怒った方がいいか、怒っているのがわからないかと思っていたけど、最後に店長さん役をやって、演技で怒るっていうのは一番難しいと感じたので、いざ自分がやってみたらそんなに怒れていない気がしなかった	自分の思いや考えを行動化する困難を感じた
	・ 今自分はアルバイトを始めたばかりで、やっぱり自分がミスをした時にあやまったりする場面があったりするので、今回学んだことを生かしながら、バイト先の人たちとコミュニケーションをとれるようにしたいと思った	トレーニングを通して学んだことを現実の場面で活用しようと思った
	・ 自分のことが一番謎	未知なる自分に気づいた
	・ 感情を抑えてしまうときがある	
	・ ロールプレイの際、あまり緊張しなくなった	自分の感情パターンに気づいた
	・ 怒りの度合いをどうしていいかわからなかった	
	・ この授業は人数も少なく、またいつも一緒にいる友達とやっているので、自分の思ったことがすぐに言えたり、積極的にみんなと意見交換ができているが、もし、もっと大人数で、あまり話したことのないような人とやっていたら、自分はさっきのようにふるまうことができない気がするので、そんな自分の違いに気づいた	自分の行動パターンに気づいた
・ どの立場においても、自分の中に起きている感情を表現することが大切だと思っ	感情を表現する重要性に気づいた	
3	・ 他人については、初めてこの人の中はどうなっているのかというのをたくさん知ることができた	
	・ みんな一生懸命演じたり説明したりしていた。意見を堂々と話している	他者に対する理解が深まった
	・ 相手を思って優しい声かけをしてくれることがわかった。役であっても優しさが出ている。	
	・ 友達がやった良い所を見つけれまねすることができた。また、静まりかえった時に、自分の意見をボーンと言い出せないで、今度は静まりを破って話せるようになりたい	他者の良いところを自分に取り入れることができた
	・ 自分という人間は、他人の意見を聞いていて、昔は何でも耳に入れないというのがあったのに、今は何でも聞くことができる。精神も大人になったと思っ	自分の成長に気づいた
	・ 慣れない敬語ですごくとまどったが、ちゃんとした敬語を使えるようにならないといけない自分の中で意識をする、いいきっかけとなった	人としての成長に必要なトレーニングだと思っ
	・ 手紙の書き方は、こういう機会がないと、この先も一切書かないと思っしたので、あらためて勉強になった	
・ ロールプレイのように、自分のおかれた状況をきちんと報告し、謝罪、そして困った時は相談すべきだと思っ。そうすることで、お互い良い関係が築けるのではないだろうか...	信頼関係を築くために必要なトレーニングだと思っ	
・ 今後の人生において、「ハウレンソウ」はとても大切な知識だと思っ		
・ 今日、学んだことを実際に使ってみようと思っ。医療現場においては、患者さんは一番の立場にあたるので、自分の意見を伝えながらも、相手を尊重してあげることが大切になってくるのではないかと思っ	看護者になるために必要なトレーニングだと思っ	
・ 私はすぐ顔に感情が出てしまうことがある。これは医療現場において絶対にやってはいけない行為だと思っ。自分の印象が悪くなるのはもちろんのこと、相手を傷つけてしまうので、これから意識して直すようにしたい		

※「回」は大家らのコモンスキルトレーニングプログラムの1回、2回、3回を意味する

表5-2 コモンスキルトレーニング実施後の学習効果

回	学生による各回終了後の「自分や他者について気づいたこと」(原文)	学習効果
4	・自分の意見を結構ズババ言ってしまうことに気づいた・自分は空想・付け足しが多い人物。医療ミス起こそう	自分の行動パターンに気づいた
	・今日のロールプレイは今までの中で一番恥ずかしがらずにできた言葉が出てきたので少し成長できたかなと思った	自分の成長を感じた
	・みんなに“ここをこうすれば良いよ”等、意見を言ってもらって素直にそうだなあと思うことができた。いつもなら納得いかない自分があるのに今日は素直に受け止められた	
	・絵を伝えるのは難しいです!!人それぞれイメージが違うので、より細かく伝えるのが大切だと思った。自分が相手に伝える能力の度合いが分かって良かった	自分のコミュニケーション上の課題に気づいた
	・これから日常生活で使う内容であったために、今の自分に足りないことを勉強できて良かった	
	・ロールプレイをやって伝えたいことが伝わらなかったの、実際に電話をするときにはしっかり今日学んだことをできるように頭に入れておきたい	既知の人の未知の部分を知ることができて良かった
	・いつも日常で話している会話とは違うかたちやふいんきで会話するのも、あらためて、友達がどのような人なのかを知れて、楽しかった	
	・相手も自分に似ているところがあった	他者との共通性に気づいた
	・思ったことを、どんどんみんなが意見を言えるようになってきたかなと思った	参加者全員の変化に気づいた
	・いつも違い相手の顔が見えなかったの、ロールプレイをやっていて不安でした。近くにいるのに声しか聞えないと電話している以上に不安だと言ったことがわかった	コミュニケーションにおける言語以外の重要性に気づいた
5	・相手の顔を見て話すことは慣れているが、やはり電話のように相手の声だけで感情を判断することは難しいと思った	自分の行動パターンに気づいた
	・自分の考えだけで先走ってしまうことが多いと思った。他人の解釈をうまく飲み取れなかった。説明がうまく伝えられなかった	自分のコミュニケーション上の課題に気づいた
	・相手の尊厳を傷つけないように自分の意志を相手に伝えることはとても難しいことだと思った。やんわり断ることも身につけなければいけないなと感じた	
	・私にはできなかったことは友達に絵を説明するときにやっていたので、いかに自分の説明が分かりにくかったかに気づかされた	自分の成長に気づいた
	・今回のように自分らしく断りの言葉を考えたり相手に伝えるための表現を考えることによって、自分のコミュニケーションスキルがアップしたように感じた。	
	・相手に伝えたことが、元の絵とほぼ同じ嬉しかった	わかりあえたことが嬉しかった
	・相手が理解した時や想いが伝わったときの顔を見ると、嬉しそう表情をしている	相互理解できたときの他者の反応を知った
	・今日の雰囲気はとっても良かった気がした	場の雰囲気の良さを感じた
	・人それぞれ考えや情報整理の仕方が違うと思った	人の個性・多様性に気づいた
	・私の学校でしか分からない美術の語句を普通に使ってしまう。相手は同じ学校でないから分からなくて困った	
・いつも以上にみんなの意見がぶつかり合ったと思った	わかりやすく情報を伝える技術への理解が深まった	
・絵を書いたときのように自分の言葉で相手に説明するのは本当に難しいことだと私は思う。しかし、相手に理解してもらうには、なるべく細かい部分まで説明し、一つ一つ順序よくこなしていくことが重要なのではないかと感じた		
・相手に自分の思いを伝えることはとても難しいと思った。医療の言葉が患者さんにとっては難しいから分かりやすく伝えるのと同じく、人に普通の会話でもより分かりやすく伝えることって大切だと思った	看護場面に活用できるトレーニングだと感じた	
6	・嫌なことはすぐ忘れられる・自分目線で考えてしまうことがあると感じた	自分の行動パターンに気づいた
	・指摘されたことで考え直すことができた。ちゃんと悪いと思った点は指摘してくれてありがたかった。でも指摘されるのは嫌だった	未知なる自分に気づいた
	・寸劇しているうちに、役に入りこんでいてそれを楽しんでいる自分がいた	
	・自分はまだ少し冷静になって、今まで覚えてきたことをもう少し考えながら言えばよかったと思った	自分のコミュニケーション上の課題に気づいた
	・誰かの相談にのるというのは、相手の気持ちをすぐ考えさせられることだと思った。ちょっと成長できた	自分の成長に気づいた
	・相手に助言の言葉をかけてあげられたと思う。次々と言いたいことや聞きたいことが頭に浮かんで来て、どんな質問や要望にもしっかりと答えることができた	
	・どんなことでも伝えないと分からないと思った	自己表現が他者と繋がることの第一歩だと思った
	・お互い、気持ちを伝えたり、相談に答えたりすることができたのではないかなと思う	相互作用できていたと思った
	・みんなの表現や演技力が磨かれていて、驚いた・みんな成長してました	他者の成長に気づいた
	・みんなすごい!!ってすごく思った。自分の中で設定をしながらしゃべっていたから	
・今まで習ってきたことを、全部使ってできるロールプレイだったと思った	全トレーニングの要素が含まれる内容だと思った	

※「回」は大塚らのコモンスキルトレーニングプログラムの4回、5回、6回を意味する

おわりに

今回の調査では、コモンスキルトレーニングを“受けたい”または“必要だ”と強く思う学生は3割に留まった。また、トレーニングの受講に消極的な学生は、日々の生活において自分の属する社会に適した行動をとるという意識が希薄であり、トレーニングを積極的に必要としない学生は、大学に入学する以前と入学して一年が経過した時点で対人関係のとり方が変わっていないと認識していることが示唆された。

看護基礎教育の観点から今回の結果を眺めると、今後は臨地実習以前に対人関係上の課題が見いだせる場を創造・提供したり、看護実践におけるコモンスキルの重要性に入学後早期に気づくことが

できるような関わりを強化したり、主体的にコモンスキル向上を図ることが困難な学生には今回用いたプログラムの紹介や年間を通しての支援をしたり等、多くの課題を見出すことができた。さらに松澤らのコモンスキルトレーニングプログラムに関しては、構成要素の一つひとつに着目し“何が学生のコモンスキル向上に繋がるのか”を追究するとともに、トレーニング進行のファシリテーターを担う教員側の準備等についても検討を重ね、より学習効果を上げる取り組みが必要であると考えられる。

本取り組みは平成21年度～22年度日本赤十字秋田短期大学プロジェクト教育研究の助成を受けて

実施した。

引用文献

- 1 宮坂美帆, 日下和代, 叶谷由佳, 中山栄純. 孤独感からみた現代医療系大学生の人間関係の実態. 看護教育 2001, 42(12), 1116-1121.
- 2 広沢正孝. 【青年期の臨床現場でいま何が起きているか 社会の変化と新たな病像】近年の大学生の心理的特徴 大学保健管理センターないし学生相談室より. 精神科治療学 2006, 21(12), 1349-1354.
- 3 瀬瀬千晶, 森田美弥子. 大学生における両親の養育態度とS-HTPの描画特徴の関連 精神的成熟度からの検討. 臨床描画研究 2010, 25, 128-145.
- 4 寺内幸恵, 中西睦子, 松澤和正. 学部課程看護学教育における基礎的対人関係スキル育成に関する研究 原理的考察. 日本看護科学学会学術集会講演集2006, 26, 327.
- 5 松澤和正, 中西睦子, 寺内幸恵, 金升子, 須田利佳子, 大塚きく子, 他. 学部課程看護学教育における基礎的対人関係スキル育成に関する研究 第2報 トレーニングの実践と検討. 日本看護科学学会学術集会講演集 2007, 27, 185.